もも しか 藤子

舞浜有希のイキ顔は部活顧問の俺しか知らない

2

舞浜有希のイキ顔は部活顧問の俺しか知らない

第 2 話

いやっ いやあっ
いまさら 暴れるなよ
さっきまで 感じてた くせに
セックス… 本当に しちゃうの!?
助けて 翔真――!!
本気にしたか？
え…
終わ…り…？

あ…
ドキ
ぐっ
ぐっ
なんで…こんな
やさしく…っ
んふ!
んっ
くんっ…
ちゅ…♡
はっ
はっ
ちゅっ
ちゅっ♡
お互い
いい息抜きに
なったな?
ハァ
ハァ
ハァ
んっ!!
ちゅぷぷっ!
ビク
それは俺との
約束の証だ
消える前に
必ず
ここへ来い
「桂木のため」
にもな…
ニヤ
パタン
ラ…

ビクッ!

ッ!

何をされたか分かってても

グス

ポロ

ポロ

グスッ

分かりたくなかった

トロ∞

ぽたっ

ぽたっ

翔真…

翌日 午後

ズク…

何度も 何度も 思い出してしまう

ウソ…

思い出してるのは
あの熱い腕

優しく身体中を
刺激する指

翔真とは
全然違うキス

そして

火照る身体…

思い出すたび
そんな自分が
いやになる

違う!!

教科書と
違うところ
あったか？

あ…いえ
その…

寝ぼけてました…

舞浜が!?
珍しい！
予習でも
しすぎたか？

あはははっ

どっ

……

あ…よっす
翔真…
スタブロ取りに来た
練習始まるぞ
あ…うん分かった
すぐ行くよ…
今は翔真に会いたくなかった
部室で待ってろ印をつけ直す
……
ごめんな有希
え…？
その…昨日のこと俺のせいなのに
今朝も監督と部室にいて…
知りたいけど…聞けない…
お前を守れなかった

俺のこと嫌いになったろ？

……

…翔真は私のこと嫌いになった？

そんなことない！大好きだ 有希

…翔真…っ

ぎゅっ…

ッ!!
いやっ!!
ドンッ
ちが…ちがうのこれは ちがっ…
!!
…あっ…
ゆ…き…
ガシャ!

…そりゃ今はやだよな
ごめん俺またやった
翔真!!
もういや
ちが…うの…
なんで…こうなっちゃったの
待ち合わせは部室裏じゃないだろ？

そういえば さっき桂木が 走ってったな

何か あったのか？

…です

ん？

俺が何をした？

桂木と別れろとも 処女を奪っても いないだろ？

何…を…って

それとも

ッ…監督が!! 監督があんなこと するから 私…

わたし 翔真を 傷つけてっ！

俺の指が忘れられなかったか？

やっ…ぁ

へ 変じゃないですか

大人なのに先生…なのにっ

…っ 来ないで

いやなら逃げろよ

だから逃げろと俺は言っている

どうして動かない？

ゾクッ

カタ カタ カタ

なんで…足…が

ほら早く逃げないと

走る時はあんなに自由に動く身体が

ブッ

ジリ… ジリ…

あっ…

金縛りのように固まって…

つかまえた

ギュ♡

ドッ ドッ ドッ

どんッ…

ブラの上からつまめるくらい乳首勃たせて
今朝よりいやらしくなってないか
ちがうぅ…っ触らないで
なんでもないです…からっ
保健体育で習ったろ？なんでもない時に乳首はこんな勃ち方しねえよ
こんなの…習い…ません
それじゃ今教えといてやる
舐めて甘い声が出るってことはお前は感じてる気持ちいいんだ

ひゃう
かぷっ
ちゅるるるっ♡
ゴリゴリ
ぐぐっぐぐっ!!
はっ！

やっ
外ですっ
ここ外ですよっ

今更それ
言うのか？

心配するな
悪いようには
しない

ぬぷっ！
ぬぷっ！

悪いです…
わるい…私
どんどん悪い子に
なっていく…っ

そうか？俺には
どんどん素直に
なっていくように
見えるぞ？

ひぐっ
バカに…
しないで…っ

いい顔だ

桂木にも見せてやりたいな

翔真――!!

あっ…練習始まって…

ザッ

ザッ

あぁ あぁっ

ドキ

ドキ

はーっ

ドキ

アリコリ

はーっ

はーっ

ドキン

ドキン

キュラ〜〜っ♡

監督 行かなきゃ 私…たちっ 行かなきゃ

ああ

ぢゅるっ

ぢゅるっ

イカなきゃな

な…っ

だめですっ 服着なきゃ

イキたいんだろ?

早く練習に戻らないとな

だから早く服…をっ

こんな格好 私たちのこと 絶対バレちゃ…

俺はそれでもかまわんぞ

だめ…！

か…んとくやめてっ

そうだな…どうしようか

このままじゃ本当に見えちゃう

見え…ちゃう…

こんなことしてるとこ

皆に…

翔真に見られちゃう――!!

——今日は舞浜さん来ねえな？
いつもなら隙を見て挨拶しに来るのに
喧嘩でもしたのか？
…なんでもねえよ
ザッ
ザッ
ザッ
エッオッ
エーオッ
ファイオーッ

…拒否されたのは

きっと昨日と同じ場所で迫ったせいだ
大体寝取られは俺の勝手な妄想で
何ひとつ証拠があるわけでもない

…あれも虫刺されって言ってた…し…

……
ザッ
ザッ
ザッ

ま…言っても

舞浜さんは
お前といるとき
一番いい笑顔
してるよ

それってさ
桂木を信頼
してるって
ことじゃね？

幼馴染で
しかも彼氏だろ
自信持てよ

悩みがあったら
その内向こうが
相談してくるさ

えー？
めんどくせえな
直球で聞こうぜ

だから垂池は
フラれんだよ

藤堂は黙れよ
関係ねーだろ!?

そう…だな

昨日 何が
あったのかは
分からないけど

言えないくらい
つらい思いを
きっとしたんだ

暮磯パイセン さすがっす

パイセン やめろや

垂池もパイセン 見習えよ な？

うっせーな オメーも彼女 いねえくせに

有希…お願いだから 全部1人で 抱え込まないでくれ

俺はお前の彼氏なんだから

ザッ

ザッ

じゅぽっ♡じゅぽっ♡

ポタ ポタ

じゅぶるるる～～♡♡♡

ヒヤヒヤしたか？
口全体で絞って
すげえ音だったから
誰か気づいたかもな

ハッ
ハッ
ぢゅぽっ♡
ぢゅぽっ♡
ん…んっ
ふっ
ぶ
んふっ
んぐぉ…

見事な
吸いっぷりだ

れろっ
れろっ
あふっ

勝手なことばかり…っ

私を貶めて…
楽しいですか？

ボタ
ボタ
くぐっ

貶める？

これは
褒めてんだ

才能あるよ
舞浜

めっ

キスの舌使いも
なかなかだったが

ぐっ

指導と
同じ口ぶり

ジュポ
ジュポ

フェ●も上手いな
反射で従ってしまう
ブルッ
にゅぷっ
にゅぷっ
後は少し歯を引っ込めたら合格だ
もう自分が分かんない
んっ
んぐッ
じゅぽっ
じゅぽっ
とにかく終わらなきゃ戻れない
バレる前に早く…！
でも…男の人っていつが終わりなの？
ぐいっ
ぐいっ
ぐいっ

じぽっじぽっ
ううっ 本当に お前は…っ!!
俺も本気で指導できる 教えがいがあって 嬉しいぞ
練習と同じ…褒め方
考えない!!
ク…ウッ
ぶぽっ!! ぶぷっ
ぶぽっ!! ぶぽっ!!
ハァ
ハァ
じゅぷっ じゅぷっ
っ…イクぞ 口に出すぞ
イク!? ふぅ!? ンン!?
ジクッ…
ガクガク
あっ! ん…ぐっ
ビクッ!!
何これ!? 喉…に…

ボッ…!!!
ドロ…
ぶしゃっ
ドロドロ
からみつくッ

続きもしたいが
一旦戻らんとさすがに怪しまれるな
お前は水道で洗ってから来い…念入りにな
えっ
でも私
まだ…

ビチ…
ビチ…
ビュ…
ん？どうした？これで終わりだ嬉しくないのか？

ッ……
なんでも…ありません
ビュ
ポタ…
ポタ…

舞浜有希のイキ顔は
部活顧問の俺しか知らない(2)

著者　ももしか藤子
発行　スクリーモ

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには一切関係ありません。
本書の一部あるいは全部を無断で複製、転載、上映、放送、配信、送信したり、
ネットへのアップロードなどは、著作権法上での除外を除き禁止します。

このドキドキをあげちゃうっ!

MENSスクリーモ

SCREAMO